



湯河原ロータリークラブ WEEKLY REPORT



2020年3月27日(金) 天気：くもり
例会 第2800回 合唱：なし

会長 平間 章弘
幹事 室伏 学

事務所：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716
例会場：ニューウェルシティ湯河原 静岡県熱海市泉 107
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401
例会日：毎週金曜日 12:30～13:30

会長挨拶

新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大し、先進国においていくつかの都市でロックダウンが行われています。日本においても、東京・大阪などの大都市において感染者が日ごとに増加している現在、日本の首都東京もロックダウンされるのではないかとされています。各地において自粛要請など対策をとってはいますが、会員の皆様も密閉、密集、密接の『3密』を避け、不要不急の外出はできるだけ自粛しますようお願いいたします。

以上のような現状では、当湯河原 RC も当面の間例会を開くという願いが叶う状況ではありませんので、5月8日(金)まで例会を休会といたします。

皆様、こまめな手洗いやうがいを行行し、強い危機感をもって日々行動し、感染予防に努力して頂きたいと思っております。

では、次回の例会までお元気にお過ごしく下さい。

場所：藤沢商工会館ミナパーク3階・5階会議室
登録料；1クラブにつき10,000円
回答期限：3月31日(火)

- 2019年地区研修・協議会開催日程変更のお知らせ
日時：5月17日(日) 登録 11:30～12:30
研修・協議会 12:30 点鐘
場所：東海大学湘南キャンパス2号館
登録料：1名7,000円
登録締切：4月16日(木)
- 2020年ロータリー国際大会が中止となりました
- 月信原稿依頼の件
字数：400字程度 写真：3-4枚(プロジェクト自体、参加されている様子のわかる写真)
締切：4月15日(水) 必着
第9グループガバナー補佐より
- 延期をお伝えしたポリオ根絶チャリティコンサートの新しい開催日が決定となりました。
2020年6月25日(木) 17:00～ 茅ヶ崎文化会館ホールにて開催となりました。

連絡事項

- 3月の例会は休会です。
- 4月10日の会費は原則として銀行振込で対応して下さい。
- 次回の例会は5月8日を予定していますが状況次第で変更があります。

幹事報告

国際ロータリー日本事務局より

- 3月のロータリーレート 1ドル110円
ガバナーより

- 会長ILW研修セミナー(PETS)開催日程変更のお知らせ

日時：4月29日(水・祝)

10時30分～16時30分

出席報告	ゲスト 1名 ビジター 0名	会員 24名
	欠席 7名(免除者2名)	前回の修正出席率 82.61%
	出席率 77.27%	前々回の修正出席率 91.30%

事前メイクアップ 1名

会員誕生日 神谷一博君 (3/14)
 会員誕生日 平間章弘君 (3/15)
 結婚記念日 西山敦君 (3/28)
 結婚記念日 小倉高代君 (3・30)
 ご夫人誕生日 常盤章夫君 (敦子様・3・27)
 室伏学君 3月19日放送のフジテレビ
 「めざましテレビ」で取り上げら
 れました。

3月11日の復興を祈願して全員でスマイル
第2800回の記念例会なので全員でスマイル

卓話：南谷桂子

「隣人祭り」——つながりを取り戻す大切な一歩
 新型コロナウイルス感染の拡大で世界が今“見えない
 敵”と闘っている。フランスでは3月17日より事実上
 のロックダウン(都市封鎖)が発令。パン屋やスーパー、
 薬局など生活必需品以外の買い物は原則的に禁止。守
 らなければ罰金を科される。パリに住む私の家族の話
 によれば、マルセイユでは外出困難な高齢者に向けて
 若者が率先して買い物をしてあげようと動き出した。
 それに続けとばかりに今フランス全国にも広がり、輪
 を見せている。またアーティストやコメディアン、ミュ
 ジシャンたちは Facebook を通じて家に閉じこもる人
 たちに束の間の安らぎを与えている。料理人たちも閉
 じられている自分たちのレストランの厨房から家庭で
 も気軽にできるレシピを動画で配信したり、実際に料
 理を作って病院で働く医師や看護師にお弁当を無償で
 届けている。3ツ星シェフのお弁当なんて夢のようだ!
 そして每晚8時になると国民全員がアパートの窓を開
 け放ち、彼らにオマージュを捧げようと拍手を送っ
 ているという。何てステキなアクションだろう! 国もま
 た行動を開始した。食料自給率122%を誇る農業大国
 フランスだが、今が野菜や果物の収穫期とあり季節労
 働者を確保できない現状、農林水産相のサイトではボ
 ランティアを募っている。外出禁止を余儀なくされて
 いるのにある意味では矛盾した行為かもしれないが、
 大自然で活動ができると既に4万人の若者がボラン
 ティアに応募しているという。逆境をポジティブに変
 える術にかけては長けているフランス人だが、こうした
 フレキシブルな対応により人々がひとつにつながり、
 連帯感や相互扶助の輪が急速に広がりを見せている。
 という訳で今日は「ひとつにつながる」ことの大切さ
 について長年私がパリで活動してきたNPO『隣人祭り』
 (仏語ではFête des Voisins という)についてお話し
 をしたい。この活動はまさに言葉通り「ご近所さんとの
 関係を常日頃から育んでおくことの大切さ」を唱えて
 いる。言い換えれば地域コミュニティの再生だ。

同じマンションに住む人たちが一年に一度(5月の最終
 金曜日の夕方)食べ物、或いは飲み物を一品持ち寄って
 マンションの入り口や建物前の広場に集まっておしゃ
 べりしましょうというたわいもない集会だ。「貴方は何
 階にお住まいですか?子育て中なのね。私も同じよ。最
 近、ゴミ出しが守られていないようですね・・・」など
 など同じ建物内に住んでいる人たちならではの共通の
 話題に花が咲く。こうして同じ建物内に“気の合う仲間
 を作ること”が最初の一歩だ。

もともと隣人祭りが立ち上げられたきっかけはマンシ
 ョンに住む高齢者の孤独死がきっかけだった。パリの
 ど真ん中で起きた無関心。それに危機感を抱いたひと
 りの青年が立ち上がった。1999年、パリの小さなマン
 ションの一角でスタートした集会、現在では世界49カ
 国、3000万人の人たちが集う大きなイベントへと成長
 した。(注:日本では2008年に私が紹介した)

個人の主張が強いといわれるフランスだが、2002年の
 夏、彼らを震撼とさせた事件が起こった。夜になっても
 40℃を下がらない猛暑で何万人という高齢者たちが命
 を失った。霊安室には15,000体の引き取り手のない
 遺体が安置。猛暑で腐敗の激しい遺体を前に大手スー
 パーマーケットが使っていない大型冷蔵庫を次々に提
 供したのだった。この事件は国民に少なからずショッ
 クを与へ、改めて家族の在り方が問われる社会問題に
 まで発展していった。それまで徹底した個人主義と言
 われていたフランス人が、人と人のつながり、人々の善
 意といったものに目覚め始め、それが輪になり大きな
 うねりとなりフランス人のメンタリティーをも変える
 象徴的な出来事となった。

新型コロナウイルスの弊害で今世界中が内向きになっ
 ていることに危機感を抱く。しかし“コロナ禍”が終息
 した暁には、またグローバルな世界が戻ってくるだろ
 う。(そう願っている!) やがて日本もフランスのような
 多種多様なカルチャーの混合社会に変わってゆくだろ
 う。そんな社会を良いと思う人、或いは日本の独自性が
 失われると否定的に思う人といろいろな意見はあるだ
 ろう。しかし社会が進化してゆく中で自分だけが抗い
 ベルトコンベアーに逆行してゆくことはもはや不可能
 である。それはひとりひとりの個性を否定すること
 ではなく、むしろ自分たちの違いを社会に役立てていく
 チャンスでもある。そういった意味からも『隣人祭り』
 が成功している理由は異世代間の交流や価値観の違う
 人たちとの対話、社会的立場の違う人たちとの積極的
 なかわりが新しいパワーを生みだし新しい未来を作
 ってゆく源だと確信する。

最後にロータリークラブに是非とも提案したいことが
 ひとつ。開かれたロータリーを目指して一年に一度、
 『隣人祭り』を開催してみてもどうだろうか? まず手
 始めにロータリークラブ会員同士のクリスマスパー
 ティーを家族同伴でやってみたらどうだろうか?みんな
 が食べ物や飲み物を一品ずつ持ち寄って集まる。まず
 は知り合うことがすべての第一歩だ。すべての可能性
 はそこからスタートする。